

地域の教育力が、子どもたちの生きる力を育む

【周防大島町 安下庄中学校区】

地域の概要

安下庄地区は、三方が山に囲まれ、一方が瀬戸内海に面しています。風光明媚な地域で大島富士と呼ばれる^{だけ}嵩山が有名です。平素から学校・家庭・地域のつながりが強く、学校に対して非常に協力的な地域です。自然豊かで、地域の力を生かせる最高の環境です。

人口	1,685人	
世帯数	220世帯	
対象校及び児童生徒数	安下庄中学校	56人
	安下庄小学校	71人

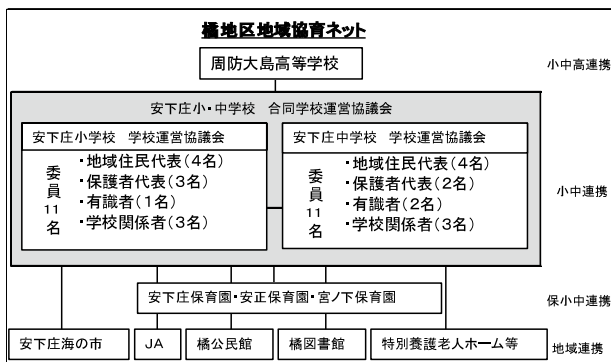
組織の内容

平成 24 年度に橘地区の小・中学校を中心とした「橘地区地域協育ネット」を立ち上げ、学校関係者、地域関係者が参加する協議会を開催し、学校と地域のつながりを深めていきました。

今年度は地域協育ネット協議会において、2回の熟議を行いました。1回目は、「安下庄の子どもをどんな子にしたいか」というテーマのもと、四つのグループに分かれて熟議をしました。「自分の考えをもって考えが言える子」「他人の人権を配慮できる子」「ふるさとの良さがわかる子」「学力のある子」の四つの視点から、その実現に向けた具体的な活動プランを協議

しました。昨年度に引き続き、講師に日本大学の佐藤晴雄先生をお招きし、示唆に富む指導助言をいただいたことで、取組の方向性ははっきりとしました。

2回目の熟議では、1回目の熟議の内容を踏まえて、活動プランを遂行するための手順や方法を話し合いました。熟議を重ねることで、参加者の思いや願いを共有することができ、実効性の高い活動プランを策定することができました。来年度は、策定した活動プランに基づいた取組を進めていきたいと考えています。



熟議の様子

特色・重点的な取組

○ 食をテーマにしたキャリア教育「ようこそ先輩」

地域でレストランを経営している人に小学校に来ていただき、お話を聞いたり、仕事の体験をしたりしました。子どもたちは、地域のために尽力する人の思いにふれることで、地域貢献の意義を考えることができました。

○ 地域住民による伝統文化の継承

中学校では、地域のゲストティーチャーによる陶芸や藍染め、機織りの体験をしました。子どもたちは、これらの体験を通して、地域に根付いた伝統文化を理解することができました。

○ ふるさと民泊体験学習の取組

8月19日～21日の3日間、中学校2年生19名が民泊学習体験をしました。子どもたちは、ふるさとのよさを再発見する感動的な体験を通して、ふるさとに誇りをもつことができました。

主な活動の紹介

○ 食をテーマにしたキャリア教育「ようこそ先輩」

地域でレストランを営んでいる方を、講師としてお招きしました。

子どもたちは、見事な包丁さばきを見学した後で、実際に野菜や果物を切る体験を通して、包丁の使い方を学びました。また、レストランを開いた経緯を聞く、貴重な機会を得ました。

講師の話によると、久しぶりに帰省した際に、多くの高齢者に喜んでもらったことで「この人たちのために自分ができることは何だろうか」と考えた結果、地元に戻ってみんなが楽しく集えるようなレストランを開こうと決心したとのことでした。子どもたちは、ふるさとへの期待に応えるために奮闘する講師の思いを知り、深い感銘を受けました。



シェフの仕事体験

○ 地域住民による伝統文化の継承

安下庄中学校の2、3年生が、美術の時間に陶芸作りを体験しました。地域で陶芸教室を開いている人の所に出向き、粘土のこね方から器にするまで助言をいただきながら仕上げました。また、着付け教室の講師を学校に招いて和服の構成と着付けについて学んだり、機織りの講師を招いて機織り機の仕組みを学び、古い布を再利用してコースターを作成したりするなど、地域住民と学校とが相互に知識と経験、物や施設を提供し合う教育活動を展開しました。今後も、継続的に地域の伝統文化にふれる取組をしていくことで、地域の伝統文化の継承者が生まれることを期待しています。



陶芸教室の様子



機織り学習の様子

○ ふるさと民泊体験学習の取組

中学生が、民泊体験学習でミカン畑での農作業や船での漁業体験をしました。この他にも石窯でのピザ作り、そうめん流し、竹とんぼ作り、フォトスタンド作り等を体験しました。福祉施設を訪問し、高齢者との交流を深めた班もありました。子どもたちが夕食の調理や片付けを行い、夜は宿泊先の家族と交流を深めました。



民泊で魚をさばく生徒

成果と課題

成果としては、小・中学校が地域と連携した教育に取り組んだことで、子どもたちが社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等について目を向けるようになったことが挙げられます。

安下庄地域は、豊かな自然に恵まれており、農業や漁業で生計を立てている人が多い反面、様々な分野で企業家が活躍し、まちおこしの一翼を担っています。そうした地域の人々から、職業について学ぶ機会を与えていただいたり、地元でしかできない体験活動をしたりすることで、子どもたちが将来の進路選択を考えたり、地域の一員としての自覚を高めたりすることができました。

課題としては、行事のねらいをはっきりさせることや小・中学校で更に連携を深め、9年間を見通した指導計画を練ることです。小・中学校それぞれが行ってきた教育活動の情報を共有し、その中から共同実践できるものや連携して取り組むべきものを確認する必要があると考えます。

今後の取組

地域における多くの人とのふれあいや、様々な体験活動を継続的に実施することで、子どもたちの豊かな人間性を育成することができます。今後も地域の人々との交流や連携を通じて、島の未来を担う子どもたちがふるさとを愛し、自立した社会人として成長することを願って、実践に取り組みたいと考えています。